

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0346
施設名	オリンピア保育園
施設所在地	調布市佐須町3-1-5
法人名	社会福祉法人オリンピア保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

登る

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)
何でも登りたがる子どもたちの興味関心は尽きない。登る手段の無いもの、又は簡単に登れるものに対して、どう工夫して遊ぶか、どう考えるか、探求しながら遊んでほしいと思った。普段、体を動かして思いきり遊ぶことに力を入れているため、このテーマに決めた。

2. 活動スケジュール

7月 目の前にある木の大型遊具。登る手段が見つからない。どのように登るか皆で考えるところから始める。登ってみる。

9月 皆から出た意見により、足元を工夫する。登って遊んでみる。

10月 登れない友達や年下の子たちの気持ちを考える。一緒に遊ぶ。

11月 いろいろな遊具を登って、遊ぶ。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・登る手段の無い、木の手作り大型遊具
- ・木切れ、タイヤ、台等、登るために必要な材料
- ・登る手段のある木の遊具
- ・0歳児用(乳児)にウレタン製の登る遊具

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

登る手段が無い、目の前にある木の大型遊具。皆でどうやって登るか考えるところから始めた。→いろんな意見を基に実際に登ってみる。→皆から出た意見により、足場に木切れをうつ。→登る。→登れない友達や年下の子たちの気持ちを考える。→必要なものを考える。→一緒に遊ぶ。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

- ・魅力のある大型遊具。登り方がわからないことに驚く子どもたち。この遊具に魅力があるからこそその反応。(この遊具はお父さんたちと職員が一緒に作り上げました。)
 - ・考えてから始まる遊び。遊びには学びがたくさん詰まっている。
 - ・自分の考えが実際形となり、チャレンジ精神に火が付く。いろいろな工夫が出てくる。
 - ・子どもたちから出てくる意見により、みんなで何とか登ろうとする。協力する体験にもつながった。
 - ・相手の考えを真剣に聞き、実現していく体験。
 - ・体の使い方も慣れてくると、登れる子も出てきた。
 - ・足場に木切れを打ち込み、少し登れる子が増えてきた。
 - ・登れない子のことを考える言葉が聞かれて、みんなで考えた。
 - ・小さい子たちも登れる遊びを考えた。
 - ・自分だけではなく、周りのことも考える力が付いた。
- 真剣に遊ぶことで、多くの学びがあった活動となった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

「遊びから学ぶ」を大切にして保育に活動を取り入れてきた。
今回は東京すくわくプロジェクトに参加して、普段とは違う、遊ぶ前に登り方を子どもが考えるという内容で、保育者もワクワクしながら取り組んだ。
活動の中で、子どもたちから発せられる言葉は、キラキラしていると感じた。
子どもの言葉を実現化して、それに伴い、子どもたちが更に活動を深めていった。
登れたことの喜びや、登れない悔しさなど、感情も沢山揺れ動く体験となった。
そこから更に、自分の気持ちや周りの気持ちを考えて、必要なもの等工夫をする力にもつながった。
また、身体能力にも確実につながっている。
子どもたちの様子から、職員同士で、必要なものについて話し合うことも増え、保育への意欲にもつながった。
今後も、子どもの活動を大切に、職員の思いと共に取り組んでいきたい。